

第1回 中津市学校のあり方検討委員会 会議録要旨

日時：令和6年8月19日（月） 17：30開会

場所：中津市教育委員会 教育委員会室

出席者：伊藤委員、梅高委員、奥村委員、御幡委員、藤原委員、本田委員、相原委員、新谷委員、高山委員、桑嶋委員（10名）

事務局：古口教育長、黒永部長、尾家課長、朝吹課長、秋吉主幹（5名）

開会前

○事務局より委嘱状、会議の公開と傍聴、会議録について説明と報告を行った。

1. 開会

○黒永教育部長より開会の挨拶を行った。

○事務局より学校のあり方検討委員会設置要綱（以下、設置要綱という）第6条2項に基づき、出席委員が11名中10名であり会議が成立する旨を報告した。

2. 教育長あいさつ

○古口教育長より挨拶を行った。

3. 委員紹介

○委員及び事務局が自己紹介を行った。

4. 委員長及び副委員長選出

○設置要綱第5条1項の規定に基づき、委員の互選により委員長を伊藤委員に、副委員長に梅高委員が選任された。

5. 議事

(1)「中津市学校のあり方検討委員会」について

○事務局より資料に沿って、検討委員会の目的、委員の構成、開催スケジュール、任期、会議の公開について説明を行った。

《発言する者なし》

(2)国の考え方などについて

○事務局より資料に沿って、国における手引きの策定の経緯及び適正規模の考え方、学校規模による特徴を説明した。

○A委員：国の考え方としては、子どもたちの教育の観点、教職員の観点から一定規模の確保が必要という考え方、一方で地域の拠点的な役割を果たしているというところを、非常にバランスよく表現している。

(3)本市の状況について

○事務局より資料に沿って、中津市における統廃合の経過、児童生徒数・学校数の推移、学校規模、の推移を説明した。

○B委員：児童・生徒数の推移は、転入転出を加味しているのか。

○事務局：単純に出生数だけの推計となっている。

○B委員：旧下毛地区は、転入が少ないと思うので、現実的に考えないといけないと感じた。

(4)学校規模の考え方について

○事務局より資料に沿って、中津市における学校規模の考え方（検討の必要性、論点、検討委員会の設置の必要性）を説明した。

《発言する者なし》

(5)進め方のポイント

○事務局より資料に沿って検討委員会の進め方について説明を行った。

○C委員：今後の考え方として、財源の問題、校区の問題を含めて検討していくのか。

○事務局：財源や校区の問題もあると思うが、子どもたちの教育にとって何が1番良いのかという観点で、様々なご意見をいただきたい。

○D委員：コミュニティの拠点、防災の拠点等の考え方に関する提示は可能か。

○事務局：3回目以降あたりから、跡地利用等の話ができると思う。

○E委員：過小規模校は存続させるのか

○事務局：存続も含め検討いただきたい。

○事務局：存続や統廃合とか色々なパターンがあると思うが、存続や統合の方法論など意見をいただきたい。さきほど、D委員の言われた跡地の活用についても、地域の要望等、広く意見をいただきたい。

○F委員：保護者については思いが熱く、色々な意見がある。今後会議を進めていく中で、担っているものが大きく、頭が重たくなっているのが現状である。

○G委員：山国の統合後、地域がどう変わったのか、廃校後の活用など山国の現状を今後、事例として示していただきたい。自身の経験ではあまり支障は無かった。

○G委員：子どもたちにとっては良かったと思う。地域の観点からはどうだったのかを示してほしい。

○H委員：スクールバスの関係や統合後の通学距離とかも親の負担等を考え、今後、話し合っていければと思う。

○I委員：統廃合ということについての保護者意見を集約したことがあるのか。

○事務局：今後必要かと思うが、教育委員会としてはアンケート等の実施はしていない。

(6) その他

○事務局より、会議録の作成方法（要点筆記、署名は委員長を除く名簿順に２名）について提案し委員の了承を得た。

6. 閉会

○黒永部長より閉会の挨拶を行った。

18時42分 閉会